

令和4年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(定時制)

学校教育目標	1 学業と就労の両立を図り、心豊かでたくましく生きる力を育てる。	具 体 的 目 標	1 生き生きと学ぶ学習の充実
	2 一般教養と工業の基礎的・基本的学習を重視し、生涯にわたり挑戦する心を持って学び続ける態度と能力を育てる。		2 豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実
	3 基本的生活習慣と態度を確立し、ねばり強い実践力と健全な心身を育てる。		3 社会で自立できる系統的なキャリア教育の推進
			4 未来を共創する工業人の育成と資格取得をめざした指導の充実
			5 活動を支える環境整備
			6 地域の期待に応える魅力ある学校づくり

達 成 度		A 達成	B 概ね達成	C やや不十分	D 不十分
評価項目		自 己 評 価 (年 間)			学校関係者評価
		具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況等	達成度	意見・要望・評価等
1	生き生きと学ぶ学習の充実	・公開授業・研究授業を年2回実施する。 ・ICT機器を活用した、「わかる授業」を実施するための研修会を実施する。 ・読書活動の推進と図書館利用の充実をはかり、1人5冊以上の貸出を目指す。 ・体調管理の大切さを伝え、欠席を減らすことで学習習慣の確立をはかる。 ・「キャリアパスポート」を活用し、学習への取り組み姿勢や生活状況の改善を目指す。	・公開授業・研究授業は前期1回、後期1回実施した。ICT活用に関する校内研修会を実施し、活用を推進した。 ・図書館を利用する生徒は限られており、5冊以上借りた生徒は2名と少なかった。 ・例年より出席率が高くなり、その分学習内容に対する理解も高まった。 ・諸活動後にキャリアパスポートへの記入による振り返りを行った。	B	・ICT機器の活用による「わかる授業」と「個別最適化学び」の充実へ向けて、継続的な授業研究を行い、研修会で情報の共有を行う。 ・各教科でも図書館利用を促す。定期的に読書週間を設定するなどの読書活動を展開する
	豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実	・年間5回、全生徒に対して全職員による面談を行うことで生徒理解を深め、生徒の基本的生活習慣の確立と規律の順守をはかる。 ・いじめ防止と早期発見、早期対応の徹底に努める。 ・生徒の自主的な生徒会活動を通し、集団活動の充実と社会性の育成を目指す。 ・交通安全指導や講話等の行事・広報活動を通し交通安全意識を高める。 ・保健指導、講話などを通し心身ともに健康で自ら自己管理ができる生徒を育成する。 ・MH委員会を活用した個別指導と情報の共有を図る。	・全職員による面談を計画的に実施できたことで、生活リズムの確立と規範意識の向上につながった。 ・いじめアンケートを生徒及び保護者に対して年2回実施した。いじめは認知されなかった。日常的な見守りと生徒情報の共有によって、トラブルを未然に防ぐことにつながっている。 ・生徒会執行部が生徒会行事を企画立案し運営した。声を掛け合い協力しながら集団での役割を果たした。 ・交通安全講話等で意識を喚起した。 ・MH委員会を継続的に開催し、生徒理解や個別指導、情報共有ができた。また、SCやSSW、外部の関係機関と連携を図った。	A	・引き続き全職員による面談を計画的に行い、職員間で面談結果を共有し生徒指導等へ活かす。 ・今後もいじめ予防と迅速な情報共有と対応に努める。 ・自己理解と良好な人間関係を構築するため、様々な場面を活用し、他者と協働する力を身につけさせる。 ・少人数の生徒会運営のあり方を検討する。 ・生徒支援についての校内研修会を実施し、外部連携で得られた専門的知見を支援に活かす。
3	社会で自立できる系統的なキャリア教育の推進	・進路に関わる各種の情報を提供し、進路関係行事を実施する。また、自己の適性を考え進路目標の表現に向けて努力させる。 ・生徒・保護者を対象に定期的に進路四者面談を実施する。 ・インターンシップへの参加を通し進路適性を理解し進路目標を明確にする。 ・就職祭りや外部ガイダンスへの参加を通し、コミュニケーション能力と自己表現力を育成する。 ・生徒一人ひとりの進路実現のため関係機関との連携を図る。 ・キャリアパスポートの効果的な使い方を研究する。	・進路希望調査、進路講話、進路研修等の行事を予定通り実施した。進路講話をきっかけに、進路に関する相談や質問を受けるケースが増えた、進路目標達成への意識を高めることができた。ただ、進路だよりの発行に至らなかった。 ・進路四者面談を2回実施し、進路意識の高揚に効果があった。 ・外部で実施するガイダンス等の活用により、生徒の就労に対する意識が高まるとともに、学校と関係機関の連携が深まった。特に外部の就労支援コーディネーターとの連携で、スムーズな就労支援の実施につながった。 ・キャリアパスポートの活用については課題が多い。継続的に効果的な運用方法を研究していく。	B	・キャリア教育総合実践プログラムの改訂にあたり、進路希望実現のためにどのような事業や指導が有効だったかを検証し改善する。 ・進路実現希望の実現のため、家庭学習の習慣の定着と出席率の向上の方策を探索する。 ・学業との両立を図り、働くことができる生徒を育成する。 ・キャリアパスポート効果的な運用方法を検討し実施する。生徒が記入後に、教員が評価をフィードバックすることで、生徒の学習意欲の喚起につなげるとともに、指導の改善にもつなげる。
	未来を共創する工業人の育成と資格取得をめざした指導の充実	・工業の基礎的な知識と技能・技術を習得させるため、その土台となる基礎的な学力の育成を図る。 ・Chromebookを活用した、工業技術に関する情報収集指導を行う。 ・自己の適性や進路などに応じて必要な資格や検定に取り組む。 ・ものづくりの体験を通して工業技術の大切さやおもしろさを理解させ、創造力と実行力を培うために、学習内容や作品を紹介する発表会・地域貢献活動を実施する。	・実習後のレポート作成指導について、工業科担当全員で継続的に取り組んだ。 ・Chromebookの活用について、各授業で指導し、学びの深化につながった。 ・前期・後期とも研究授業を実施した。 ・各種検定・資格はのべ3名の生徒が取得したが、全員が1つ以上の取得には至らなかった。 ・課題研究において中間、年度末とも発表会を行ったが、全日制との合同の「鶴岡研究発表会」での発表には至らなかった。 ・プレゼンテーションスキルは向上している。 ・緑根のプラランターを実習で製作した木製のプラランターカバーと鉢置台に設置で、公共施設に贈呈した。	B	・基礎学力向上を目指した指導と、主体的に学習内容をまとめるレポート作成の指導を継続する。 ・資格、検定取得の重要性を説明し、計画的に学習に取り組める場を設定する。 ・校内展示スペースや夜学祭などで、実習作品の展示を充実させる。 ・プレゼンテーションの機会を今後も実施し発表する力を養う。 ・鶴岡研究発表会での発表を視野に入れて、年度当初から準備を行う。
5	活動を支える環境整備	・安全教育と防災教育・防災対策により、生徒の校内外での安全な活動を確保する。 ・施設・設備の安全維持と清潔で快適な学校生活環境を整備する。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、始業前後に活動場所の消毒を行う。	・春季と秋季の防災訓練を予定通り実施した。 ・毎月の安全点検により、不具合や整備箇所の早期発見と対応に努め、安全な教育環境を確保した。 ・消毒は職員で分担し、毎日行った。	B	・防災訓練は、火災・地震・水害・Jアラート等、様々な事業を想定して計画する。 ・安全点検と感染症防止対策は継続していく。
	地域の期待に応える魅力ある学校づくり	・ホームページの更新、「鶴工定通信」の定期発行等を通して、家庭・地域へ情報を発信し活動の充実を図る。 ・PTA総会、懇談会への保護者の参加を促し、家庭との連携を密にする。 ・食育指導の充実を図り、心身とも健康な生徒の育成を目指す。 ・ボランティア活動の充実を図り、生徒全員で取り組み地域とつながることを目指す。	・ホームページの更新が滞った。記事内容の検討、古い記事の早期更新を行う。 ・「鶴工定通信」は予定していた9月の発行ができなかった。 ・コロナ感染対策を図りながらPTA総会・懇談会を実施した。出席率78％と昨年度より20ポイント向上した。 ・栄養指導等を行ったが、生徒の摂食率が76.5％と昨年度とほぼ同程度だった。 ・地域貢献ボランティア活動に生徒全員で取り組んだ。	B	・ホームページは、逐次、内容の検討・更新に努める。 ・「鶴工定通信」は3回発行を完全実施する。 ・生徒数の減少にともない、PTA組織もさらに小規模になるが、アットホームな雰囲気大切にしながら連携していく。
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		・閉課程に伴い生徒数がさらに減少するため、生徒・保護者による学校評価アンケートの実施方法や結果の分析方法を再検討する。 ・より実態に即した学校関係者評価を行うために、情報発信に加えて、普段の教育活動を見ていただく機会をさらに検討する。			学校関係者評価 A

総 括
・ICTを活用した「わかる授業」と「個別最適化学び」の実現に向けた研修を継続し、基礎学力と学習習慣の定着をめざします。 ・生活指導、交通安全指導、保健指導等とおして基本的生活習慣を定着させるとともに、個に応じた計画的な面談活動や外部機関との連携等を行い、心身とも健康な生徒を今後とも育成します。また、いじめ防止対策を引き続き徹底して行います。 ・生徒が自己理解を深め生き方考えるための指導や事業を計画的に行い、進路目標の設定とその実現を図ります。また、様々な体験活動を通して、社会で自立するための課題対応能力や人間関係形成能力を育成します。 ・ものづくりの体験を通して工業技術の魅力や、主体的に取り組む姿勢や発表する力を育成します。また、積極的に講習会等を開催し、資格取得をサポートしていきます。 ・防災教育、施設設備の安全点検などにより、生徒の校内外での安心・安全な活動を確保していきます。 ・定時制教育の情報を積極的に発信するとともに、ボランティア活動等を推進し、地域・外部機関との連携をより深めます。そのことにより、関係方面より理解され協力される学校づくりを進めます。また、今後も保護者との面談等を充実させ、保護者との連携を進めます。